

遊んで、食べて、

ともに居ることを大切に一緒に生きていく

～貧困対策としての居場所づくりではない、こどもたちの今
を見つめる居場所づくり～

一般社団法人みんなのももやま子ども食堂
菅原耕太

自己紹介

菅原耕太(ぽんた)

千葉県で育ち、沖縄に移住して10年。

20代は国際協力を志し、青年海外協力隊としてマダガスカルへ。
帰国後は通信制高校サポート校に勤務。

2015年から沖縄へ。18歳と3歳半の双子を育てています。

一般社団法人 みんなのももやま子ども食堂

2015年5月 任意団体ももやま子ども食堂として活動開始

2016年 沖縄市こどもの居場所運営支援事業補助金を受け
週に5日開所

2021年 法人化

2025年 居場所作り、若者支援、親子サロンなどの活動を

こどもたちから聴こえるのは

支援ではなく、共にいることの大切さ





居場所に来てもらう日を
こどもたちと相談の上決めています

月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
小学生	小学生 中学生	小学生	小学生	中学生 高校生



2025年10月現在

156名のこども、若者が利用

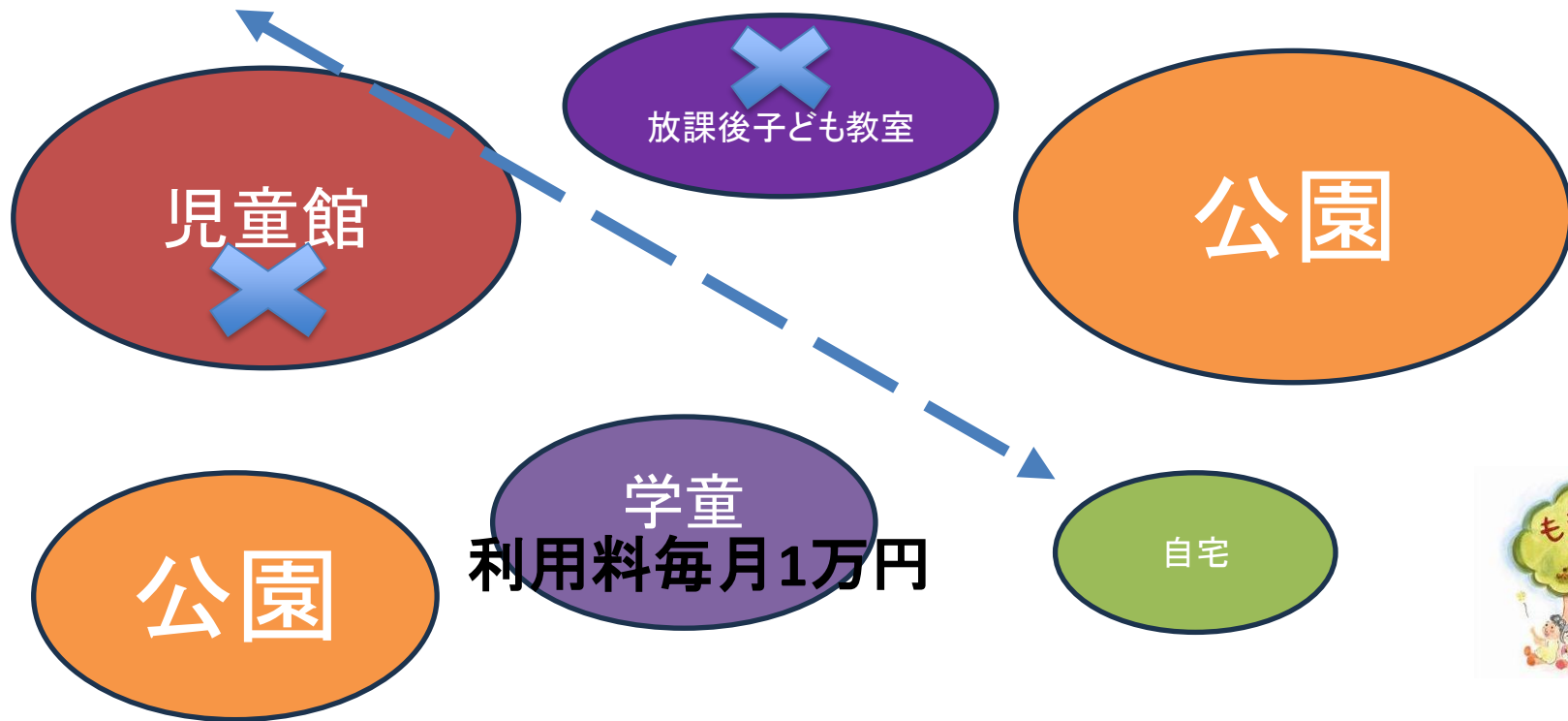
小学生67%

中学生16%

高校生、若者17%

8割のこどもたちは口コミで

放課後子どもが利用できる場がない



こどもたちが

自分で過ごし方を決めて良い場

自分のタイミングで寄れる場

食べる、休む、あそぶが満たされる場

エピソード：子どもが過ごし方を伝える

初めて来たAくん to 常連のBくんが一言
『ここは自由だから、何してもいいんだよ』



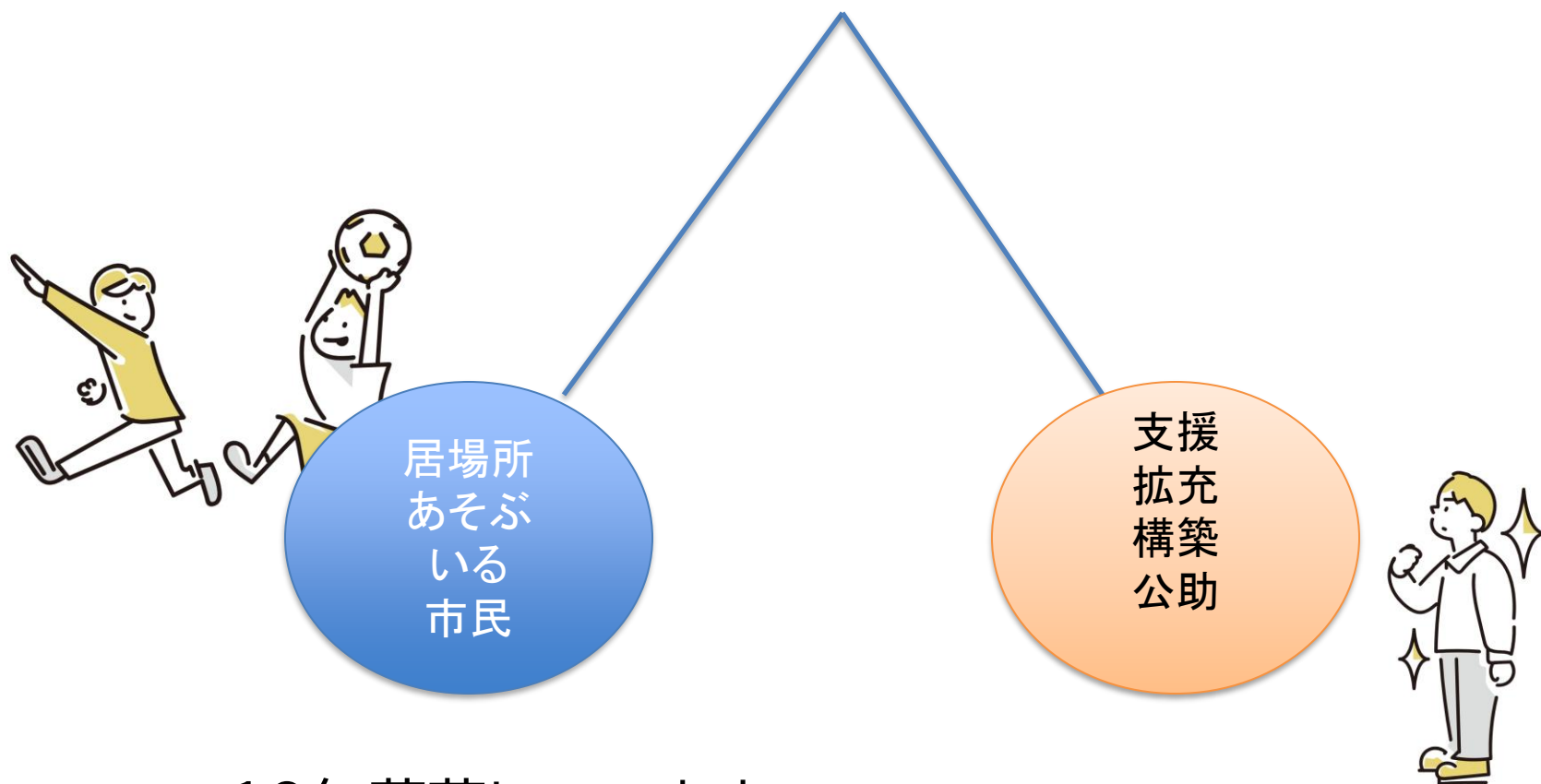
エピソード：毎日じゃないんですか？

近隣の学校の先生から、
『しんどい状況にあるのに何故毎日受け入れしない
んですか』と聞かれたことがあります。

「そのような子たちは居場所ではなく、
専門機関で対応する方が良い」

エピソード：毎日じゃないんですか？

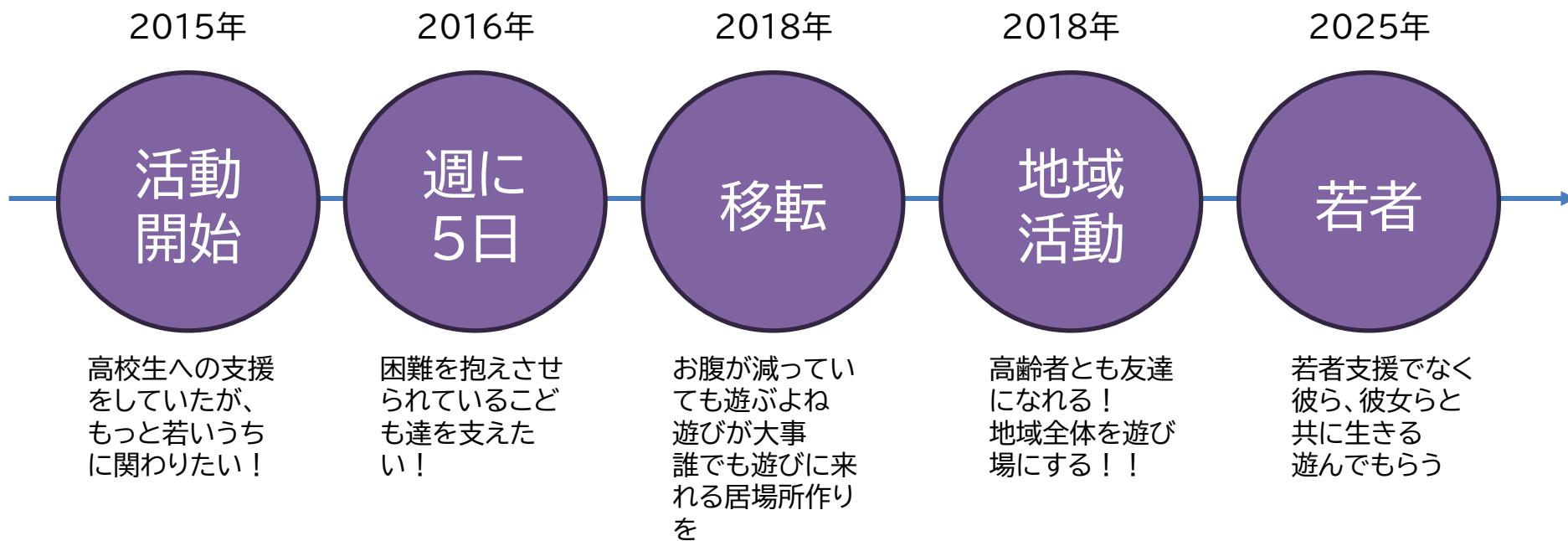
「貧困対策が始まり、その子の暮らしをガラッと変えることは乱暴に感じる」

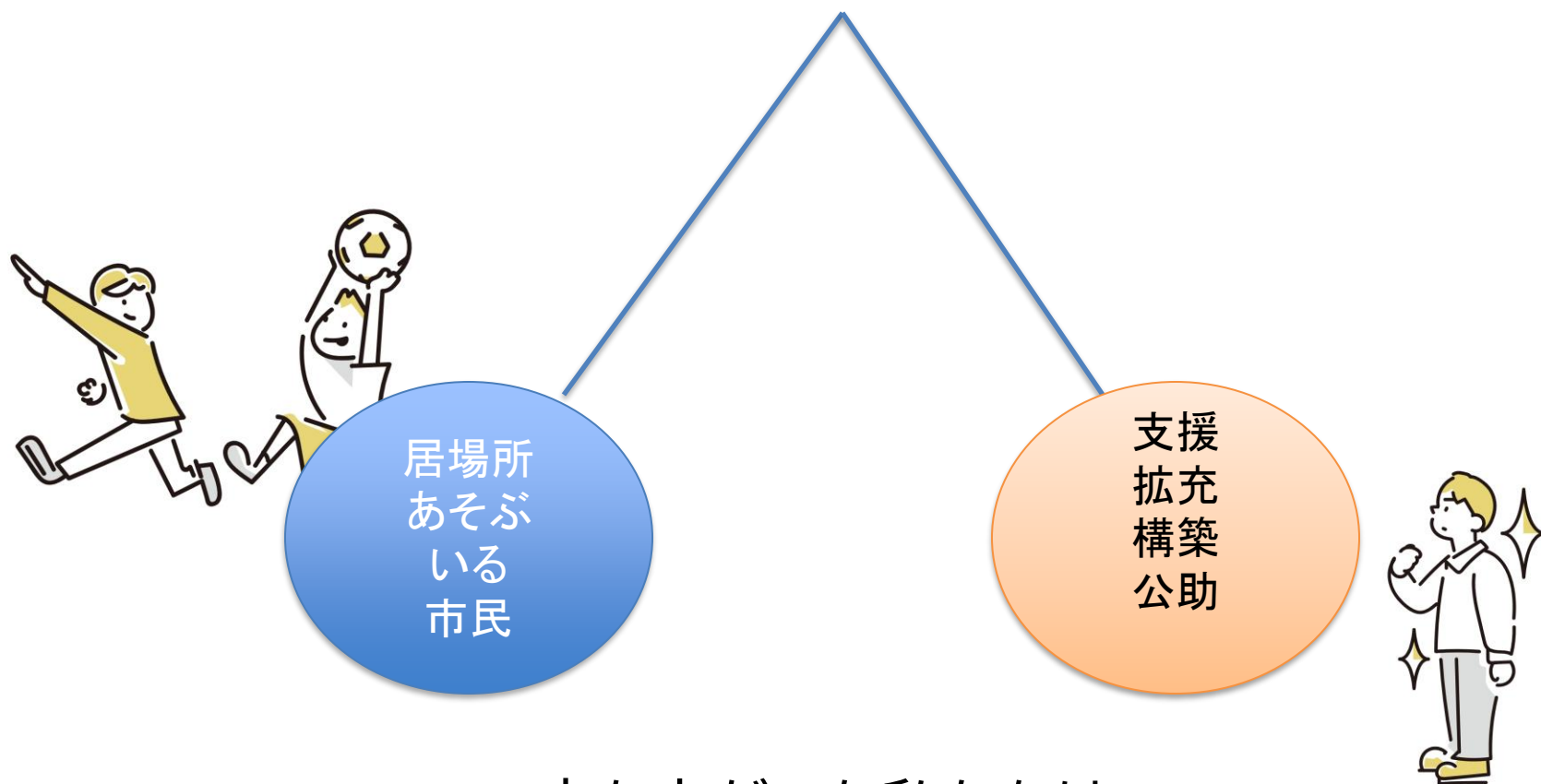


10年葛藤しています

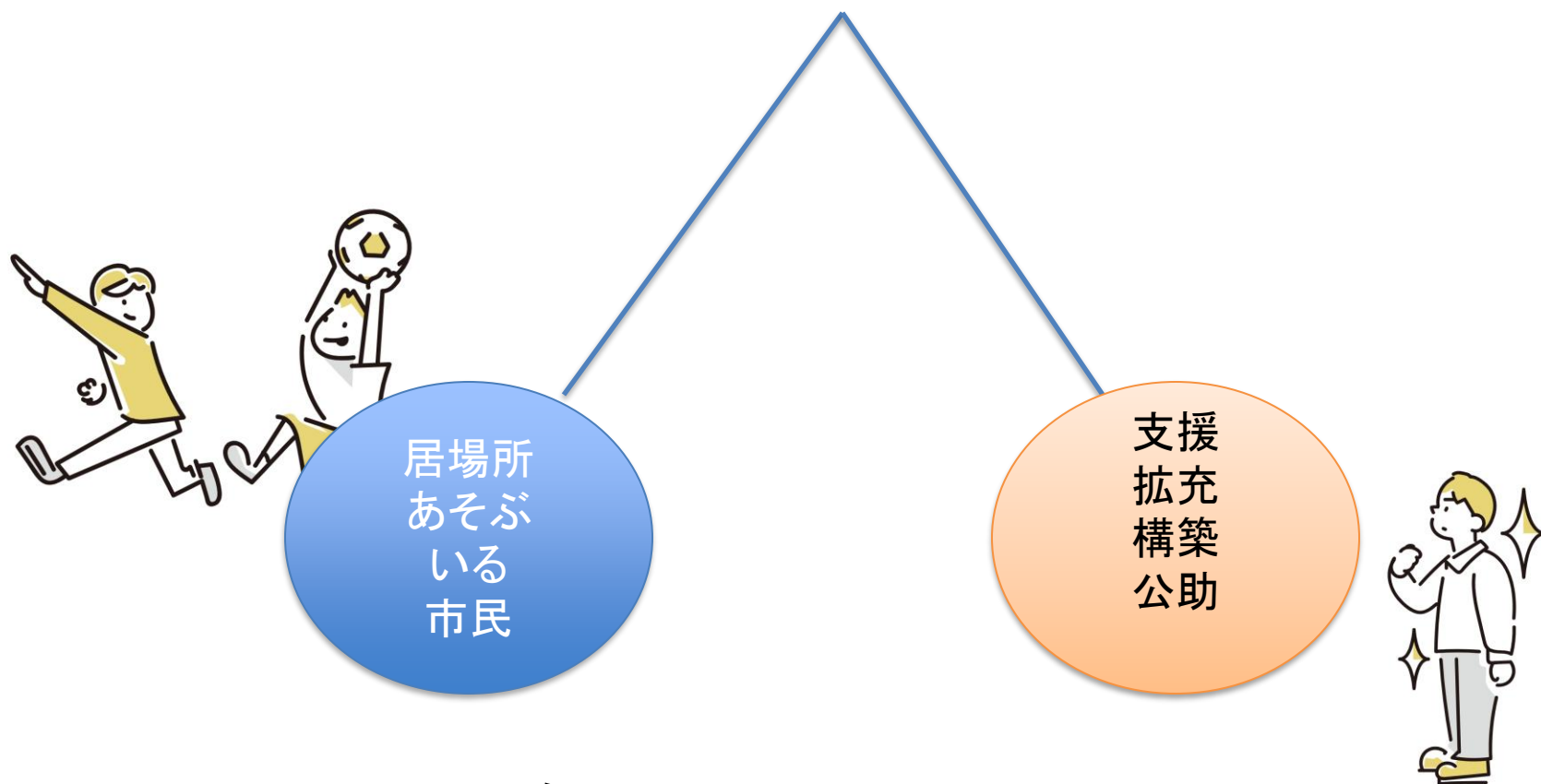
マダガスカルからずっと葛藤してます

時系列で考える





立ち上がった私たちは、
いつのまにか公助を背負わされた



個人の問題ではなく
社会の問題として、社会に返していく



ももやま子ども食堂に関わり続ける理由

育つ過程で失ってきたかもしれない鋭く柔らかな感性や、
気持ちの向くことに熱中できる力や、
自然や宇宙のそばにある力、
ジャッジや判断の前にこころが動くこと。そうしたものをいま
まさに持っている人たちへの尊敬となつかしさ、
ある種の羨望なのかもしれません。

山口有紗、「子どものウェルビーイングとひびきあう 権利、声、「象徴」としての子ども、

一般社団法人 みんなのももやま子ども食堂

ももやまサポーターを募集します

継続寄付のお願い



みんなのお家

ももやま
こども
しょくどう



一般社団法人 みんなのももやま子ども食堂

【寄付のお申し込み】

<https://readyfor.jp/projects/momoyama>

右のQRコードをお読み取りください。

【寄付に関するお問合せ】

TEL : 080-6489-3263

MAIL : momoyamakodomo@gmail.com

